

## ながい “長活き”する秋田へ

秋田経済研究所

理事長 新谷 明弘

『あきた経済』 今月号では、秋田銀行が取り組んできている「長活き」を特集しています。

「長活き」とは、日本一の高齢県である秋田県が、日本一アクティブな高齢者がいる県になっていることを表す秋田銀行発の新しい概念・価値観であり、新たな未来図として提案するものです。「長活き」を提案することを通じて秋田の高齢者の気持ちを動かし、そして秋田全体も動かす価値観へと発展させていくことを目指しています。

このアクティブシニアを生み出すための新たな取組みとして、2016年4月に「あきぎん長活き学校」を開校させました。この学校では、高齢になっても新たに何かを学べる、そして学ぶ生徒が先生にもなるという、お互い先生にも生徒にもなる学校運営を行っています。

開校から今年で10年を迎えました。この10年で先生として登壇いただいた方は71名、登録いただいている学生数は約850人まで増えました。「長活き」先生は県内で活躍されている一般の方々を中心ですが、授業を見学するたびに身近にこんなにも素晴らしい先生がいるのかと驚きの連続です。「長活き」先生に共通することは、高齢になっても挑戦する気持ちや意欲を持ち続けていることです。校長に就任いただいている銭谷真美さんからも「高齢になっても生き活きと活躍するには自分の経験を活かすことだけでなく、キャリアを積んだ分野とは違うものにチャレンジすることが大事」とエールを送っていただいています。

秋田県は、65歳以上の高齢者の割合が35%を超え、全国で最も高齢化率の高い状況が続いています。高齢化の急速な進展にともない、さまざまな課題が発生し困難な対応も求められますが、高齢化を否定的に捉えることは避けなければならないと考えます。

2015年にOECDが策定した『都市における高齢化』という報告の前文には、「高齢社会は『問題』ではない。長寿は社会の発展の成果であり、それに関連する技術開発等を促すことによって成長の源泉となりうる。(中略) 高齢社会は高齢者のみの社会を意味しない。高齢者が質の高い生活ができる都市は他の世代にとっても住みよい場所になる。」と記載されています。

高齢社会が抱える健康や経済面などの課題は、簡単に解決できるものではありません。そうした困難をとまなうことを理解しながらも、高齢化が最も進む秋田県だからこそ「生き活き」と暮らしていくための新たな技術開発や多世代が共生する社会の構築など、この秋田から生み出す意義は大きいと考えています。

秋田銀行グループは、これからも「長活き”する秋田へ”に向けて取り組んでまいります。